

エディトリアル

市立恵那病院 内科部長 山田誠史

プライマリ・ケアの場ではさまざまな疾患に対して適切な初期対応をする必要がある。とりわけ、医療機関が少ない地域の診療所では専門、非専門にかかわらず、ほぼ全ての疾患の初期対応が望まれる。「月刊地域医学」ではこれまでも地域で診療に従事している非専門医を対象とした特集が企画されてきており、今年度も5月号、8月号でそれぞれ、上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査、および慢性咳嗽についての特集が組まれている。外科系を専門としていない筆者としては、外科系の処置、特に小外科処置については実は初期研修時代にしか教わっていないことに思い至り、今回の特集を企画することとなった。

外傷の初期診療のガイドラインとしてはJATEC(Japan Advanced Trauma Evaluation and Care)があるが、これは主として交通外傷をはじめとする高エネルギー外傷に対する初期診療を対象としたものであり、セッティングが異なる。また救急医学系の雑誌やレジデント向けの雑誌でも外傷診療についての特集が組まれるようなこともあるが、これらも主としてER型救急が基本セッティングとなっており、人的、物的資源がいずれも限られている地域でのプライマリ・ケアセッティングでの小外科処置について記載されたものは意外と少ない。われわれが遭遇する小外科処置を要する疾患としては、本誌に記載されている以外にも眼科疾患、歯科口腔外科疾患などもあり、それらを含め全てを網羅することは残念ながら不可能である。そのため、今回の特集ではポイントを絞り、5人の専門の先生方に地域診療所でのセッティングで記述していただいた。限られた字数の中、執筆者の先生方にはご無理を申し上げることとなったが、いずれの論文もご自身の経験をもとに、プライマリ・ケアセッティングでの診療について非常にプラクティカルな内容となっている。

縫合を必要としない創傷、褥瘡処置については、湿潤療法の第一人者である夏井 睦先生に執筆いただいた。筆者も湿潤療法を知るまでは「消毒して乾燥させる」治療を当然のものとして行っていただけに、これを知った時には衝撃的で、早速講演会に参加したことを思い出した次第である。最近では湿潤療法もかなり浸透しており、被覆材の種類も豊富となってきたが、一部には誤った被覆材の使用法なども散見されるように思われる。論文中には治癒過程の画像も豊富で、治療の流れについても実診療に沿って記載されており、湿潤療法の基本を理解するには最適である。

藤岡正樹先生には縫合処置が必要な創傷に関して、上手な縫合のコツについて記載していただいた。死腔を残さないことや、創面をきちんと合わせることなど、頭の中では分かっているにもかかわらず実際に行う上ではなかなかうまくいかないことに関する注意点が詳しく述べられており、また、備えておくべき処置具、縫合糸についても具体的に記述さ

れており、まさに明日からの診療にすぐに役立つ知識が満載である。

伊達和人先生には整形外科領域での処置について記載していただいた。整形外科領域は手、足、脊椎など多岐にわたるため、今回は手の外傷、初期治療に絞った内容となっている。筆者のような専門外のものにとって、手の傷はno man's landのイメージが強く、どうしても処置をするにあたり及び腰になってしまいがちである。そのため(結果的には)不必要なコンサルトを夜間や休日に行うこともしばしばであるが、必ずしも当日に処置が必要でないことが分かればある程度安心して対処もできよう。

宮崎国久先生には「さまざまな外傷への対応」と題して、地域で遭遇することが比較的多いと思われるanimal biteについて主として記載していただいた。沿岸部や島しょ部では海棲生物によるものがあったり、そのほかでも地域特有の外傷もあろうかと思うが、誌面の都合上かなり絞った内容になっていることはご容赦いただきたい。しかしながら基本的な対応には違いがなく、また、日常悩まされることが多い破傷風予防についても簡潔にまとめられており非常に理解しやすい内容となっている。またここまでの3編ではいずれも初期対応として流水による洗浄の有用性について述べられており、医療従事者のみならず、患者さんへの啓発も必要であろうと考えられる。

松尾博道先生には耳鼻咽喉科領域での外傷の対応について記載していただいた。外耳道・咽頭異物、鼻出血など、救急外来で経験する耳鼻咽喉科疾患は多い。耳鼻科領域の処置は手元から離れたところで行うことも多く、筆者はこちらがさんざん苦勞してもうまく行えなかった処置をいとも簡単に耳鼻科の先生がされることをしばしば経験している。著者も述べているように、今後地域の一線で勤務する方は、耳鼻科領域の処置を行うにあたり処置具の扱いをある程度習熟するためにも、一定期間のトレーニングの必要性を感じた。

今回記述された内容は、地域の一線で活躍されておられる先生方が、実際行われていることを非常に具体的に述べておられ、現在地域で診療に従事されている方、今後地域で診療を行おうと思っている方はご一読の上、ぜひ診察室に常備しておかれることをお勧めしたい。